

第22期運営委員立候補声明

中川 聡

現代日本の精神医学を中心とする精神保健は、半世紀に及ぶ管理主義を脱することが出来ず。管理の為の投薬が治療の名の下で正当化されています。また福祉分野における過度の医療化は、精神科医への過度の権力を与えることとなりました。本来、精神医療に対するオルタナティブの主要なプレイヤーであるはずの臨床心理士が、新制度において医療の配下に甘んじる公認心理師となることは、臨床心理士が自らの存在意味、可能性を放棄したことに他なりません。

本学会を、薬漬け医療に対するオルタナティブとして、今後の地域精神保健サービスにおける中心的な役割を担う人材を育む場として、機能させることが私の目標です。福祉や心理職が医療化を排し、独自の力を持つことこそ、現状を打破する唯一の方策であると私は考えます。

特に、薬漬け治療のオルタナティブとして、リカバリーモデルや家族セラピー、オープンダイアログセラピーなどの社会精神医学的アプローチを研究、育成することに注力したい。